

水産研究本部各水産試験場と道内の主要栽培漁業施設の位置



水産研究本部

- ①中央水産試験場
- ②函館水産試験場
- ③釧路水産試験場
- ④網走水産試験場
- ⑤稚内水産試験場
- ⑥栽培水産試験場
- ⑦さけます・内水面水産試験場

北海道栽培漁業振興公社

- ①熊石事業所
- ②瀬棚事業所
- ③羽幌事業所
- ④伊達事業所
- ⑤えりも事業所

国立研究開発法人水産研究・教育機構

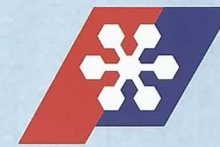
- ①北海道区水産研究所 釧路庁舎
- ②北海道区水産研究所 厚岸庁舎

* ▲市町村・漁業等が運営する種苗生産、中間育成施設

交通手段



JR室蘭駅下車、室蘭駅から車で5分または徒歩30分



地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
栽培水産試験場 要覧



〒051-0013 北海道室蘭市舟見町1丁目156番3号
TEL0143-22-2320 FAX0143-22-7605

MARICULTURE FISHERIES RESEARCH INSTITUTE,
HOKKAIDO RESEARCH ORGANIZATION
1-156-3 FUNAMI-CHO, MURORAN
HOKKAIDO, 051-0013, JAPAN
TEL 0143-22-2320 FAX 0143-22-7605
e-mail:mariculture-fish@hro.or.jp

沿革

北海道立函館水産試験場室蘭支場		北海道立栽培漁業総合センター	
昭和39年	函館水試の分場として室蘭市に開所	昭和47年	鹿部村に開所
昭和57年	庁舎改築とともに室蘭支場に移行	昭和49年	種苗量産試験のため第二飼育棟建設
平成17年	建設中の栽培水試管理研究棟に移転	平成10年	新第一飼育棟建設
平成18年3月	廃止	平成18年3月	廃止
平成18年4月	北海道立栽培水産試験場(現庁舎)開所		
平成22年4月	北海道の機構改正に伴い地方独立行政法人北海道立総合研究機構に移行		

栽培水産試験場は平成18年4月、函館水産試験場室蘭支場と栽培漁業総合センターが統廃合され、新たに発足しました。従来の栽培漁業総合センターの機能をより一層充実し、種苗生産及び中間育成技術開発の全道拠点としての役割を担うと共に、担当エリアの胆振・日高海域における漁業資源に関する調査研究を行っています。

平成22年4月、道立試験研究機関の地方独立行政法人化に伴い、地方独立行政法人北海道立総合研究機構のもとで、水産業が抱える様々な課題解決のため、関係機関と連携しながら、多方面にわたる試験研究に取り組んでいきます。

組織



研究

栽培技術部：[栽培漁業対象種の種苗生産・中間育成技術等の開発に関する試験研究]
 ・ マツカワ、タラバガニの種苗生産・中間育成技術に関する試験研究
 ・ キツネメバル、ニシン等の種苗生産、中間育成・放流技術に関する試験研究
 ・ アサリ、バカガイ、イワガキ等の種苗生産・中間育成・養殖技術に関する試験研究

調査研究部：[水産資源の維持増大のための資源評価・管理、栽培放流技術の開発に関する調査研究]
 ・ 資源、漁場のモニタリング、資源評価、総合管理などに関する調査研究
 ・ 種苗放流技術、初期減耗抑制、地域栽培漁業対象資源などに関する調査研究
 ・ 資源変動機構の解明のため、生活史初期の生理・生態に関する研究

敷地内配置図



施設規模と主な棟名

敷地面積	約17,100㎡
取水能力	130～200t/時
取水管延長	780m
管理研究棟	2,841㎡
親魚棟	879㎡
量産棟	1,275㎡
貝類甲殻類棟	1,100㎡
隔離飼育棟	146㎡
取水ろ過棟	660㎡
調査機器保管庫	98㎡

1. 管理研究棟：調査研究、種苗生産技術研究、試験研究ギャラリー(展示室)、事務の拠点等となる本庁舎
2. 親魚棟：量産用の親魚の飼育、採卵、基礎基盤試験研究のための施設
3. 量産棟：人工種苗大量生産技術開発試験における仔稚魚などを大量飼育する施設
4. 隔離飼育棟：各施設への導入前の天然親魚や稚魚などを収容する施設。
5. 貝類甲殻類棟：貝類や甲殻類の種苗生産、幼稚仔育成技術研究のための施設
6. 取水ろ過棟：各飼育棟へ配送する海水のろ過や、加温冷却、自家発電を行う施設
7. 調査機器保管庫：沿岸調査等に用いる各種機器や漁具(ソリネットや潜水用具等)の保管施設

主な研究対象種



シシャモ(仔魚)



キツネメバル(マソイ)



ニシン



アサリ



バカガイ



タラバガニ(稚ガニ)